

学校教育目標

「夢や目標をもち
チャレンジ精神と思いやりの心に
満ちあふれた生徒の育成」



希望坂(北中だより)

第4号 令和7年7月10日

みやき町立北茂安中学校

校長 原田 浩臣

<https://www.education.saga.jp/hp/kitashigeyasu-j/>

給食について

数か月前、福岡市の給食のおかずが唐揚げ一つということに関して大きな話題となりました。先日のPTAの会議でもそのことが話題となり、「あの写真を見ると保護者として自分の子どもの給食はどうだろうかと不安になります。そうした不安を払しょくするため本校の給食の量がわかる写真を保護者に見てもらったらどうか？」というご意見をいただきました。保護者からの視点であり大変ありがたい意見として、採用させていただきました。



保護者にとって給食の量に不安を感じることは、意外とよくあることのようにです。特に成長期の子どもたちにとって、食事の量や満足感は心と体の健康にも影響を与えます。そんな保護者と生徒の不安を和らげるために、いくつかの「できること」を載せてみました。

○給食の量に関する不安の背景

【個人差】成長スピードや食欲は人それぞれ。多いと感じる子もいれば、少ないと感じる子もいます。

【苦手な食材】嫌いなものが多いと、食べられる量が減ってしまい「足りない」と感じがちです。

【活動量とのバランス】部活動や習い事が活発な子は、より多くのエネルギーを必要とします。

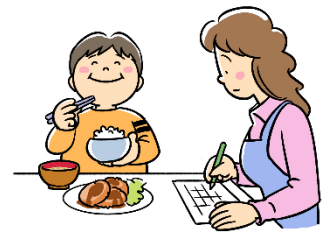
○不安を和らげるためのアイデア

【家庭でのフォローアップ】給食では足りないぶんを、朝食や夕食でカバーできると安心です。

【本人の声を聞く】子ども自身に「どんなときに足りないと感じるのか」を聞いてみてください。

【学校との連携】担任や栄養士の先生に相談することで、必要に応じた対応も期待できます。

【食育の一環として話す】嫌いなものを残さずバランスの取れた食事の大切さや、自分の体と相談して食べることを伝えるのも有効です。



学校と家庭が協力して、生徒が「きちんと食べられている」「大切にされている」と感じられる環境を整えることが、不安の解消につながります。もしそのような不安があれば、詳しく教えてください。たとえば、誰の不安か（自分自身？お子さん？）、どんな場面でそう感じるのか——それによって、より具体的な対策やアドバイスができるかもしれません。よろしくお願いいたします。

夏季総合体育大会および吹奏楽コンクール選手推戴式



6月16日（月）に夏季総合体育大会・吹奏楽コンクールの選手推戴式を行いました。選手を代表してバレーボール部部長の園田桜彩さんが「我々選手一同は、どんな練習にも耐え苦しい場面でもチームみんなで声を掛け合いながら中体連に向かって頑張ってきました。その努力の成果を十二分に発揮し、今まで支えてくださった先生方や地域の方、そして仕事や家事をしながらも一番そばで応援してくれた家族に感謝し、これまで一緒に戦ってきた仲間のことを最後まで信じ続け、北中生としての誇りを胸に全力で戦い抜くことを誓います。」と力強く選手宣誓を行いました。その後、各主将・部長からの決意表明がありました。

今までの練習を振り返り、本番に臨もうとしている姿は自信に満ち溢れ、とても頼もしく、心強く感じました。

これまで頑張った自分を信じ、仲間を信じ、自分のやれること、自分たちのやれる最大の力を発揮してほしいと思います。すべての人に感謝の気持ちをもって、最後まであきらめず、「応援したくなる北茂安中」と、チーム・個人の目標を目指してください。みなさんの健闘を祈る有意義な式となりました。

生徒の活躍を紹介します



【6月8日 第38回佐賀県道場少年剣道大会】

中学生団体の部	優勝	北茂安中学校A	中学生男子個人の部	第三位	古賀 脩也
〃	準優勝	北茂安中学校C	〃	敢闘賞	益田 隼希
〃	敢闘賞	北茂安中学校B	特別賞	最所 響雅	
〃	敢闘賞	北茂安中学校E			

【6月28・29日 三養基・神埼地区中学校総合体育大会】

サッカー競技	第三位	軟式野球	第三位
バスケットボール競技男子	第二位	剣道競技男子団体	優勝（県大会出場）
バスケットボール競技女子	第二位	剣道競技女子団体	第二位 みやき中で（県大会出場）
バレーボール競技女子	第三位	剣道競技男子個人	第三位 古賀 脩也（県大会出場）
卓球競技女子団体	第二位（県大会出場）	〃	第三位 嘉村 光太（県大会出場）
卓球競技女子個人	第五位 椎葉 美陽（県大会出場）	〃	第五位 太田 蒼士（県大会出場）

～素晴らしい活躍でした～ おめでとうございます！

避難訓練（不審者対策）

6月19日（木）、鳥栖警察署生活安全課と防犯アドバイザーの方に来校いただきました。不審者を演じていただき、通報を受けて駆け付けた警察官が不審者を取り押さえるまでの流れを確認しました。避難を呼びかける放送が数分遅れたり、不審者の居場所を正確につかまないと生徒の傍にいる職員が的確な避難経路を判断できなかったりするなど実際に行ってみないと浮かんでこない課題が確認できました。こうした訓練は年に1回実施していますが、これらの課題にしっかり向き合い、生徒の「安全・安心」を第一とする学校運営に取り組んでいきたいと思ひます。最後に生徒会生活委員長の太田 蒼士さんが「今日のお話を聞いて不審者はいつ、どこにいるとき来るかわからないから、臨機応変に行動できるようになったほうがいいことがわかりました。これからはそうした行動ができるように、日ごろから周りを見て行動したいと思ひます。今日はありがとうございました。」とお礼の言葉を述べました。



子どもにはご家庭でお手伝いを！！

夏休みがはじまります。夏休み中、お子さまのご家庭での過ごし方はどのように考えていらっしゃるでしょうか？ 時間にゆとりがあります。ぜひご家庭でお手伝いをさせてください。

子どもの時のお手伝い経験（掃除、洗濯、買い物、調理、後片付け、育児、介護など）が仕事をする力を育てるという話をよく聞きます。ある本の一節ですが、



ある企業での話です。大学卒の新入社員が配属されてから数ヶ月後、配属先の管理職からクレームが上がってきた。今年の新入社員は「気が利かない」「段取りが悪い」「口ばかりで動かない」「教えてもらっても感謝しない」・・・要するに使い物にならないということです。困惑した人事部では改めて社内調査を実施し、「使える人材」と「使えない人材」を分けるポイントを探った。そして分かったのは、「使える」と言われた新人は、みな子どもの頃に親のお手伝いをした経験があり、「使えない」と言われた新人はしたことがない、という事実だった。「小さい頃のお手伝いの経験」が仕事の質を左右していたのだ。以後この会社では、「子どもの時に親の手伝いをしたことがない人間は採用しない」と決めたという。お手伝いの経験と仕事力はどう結びつくのか。お手伝いというのは、親から家庭内の仕事の一部を指示されて任される。その過程で、コミュニケーションする力、段取りする力、計画する力、問題解決する力、最後までやり遂げる力などが自然に身につくと予想される。

『ものの見方が変わる 座右の寓話』より抜粋

保護者の皆さん、この話を聞いてどう考えますか。今は受験期だからとか部活動で疲れているだろうからと、子どもに配慮してお手伝いをさせていないということはありませんか？

今を見るのではなく、5年後、10年後、お子様が社会に出たときにどのように評価されるかと考えてみるのはどうでしょうか。お手伝いばかりさせるのは問題がありますが、一日一つ・二つのお手伝いがあったらきっと将来の役に立つと思ひます。夏休み前にお子様としっかり話し合い、ぜひ実行してみてください。